



フタバから遠く離れて N u c l e a r N a t i o n II

〔第二部〕

町長交代、避難所閉鎖までの1,111日。
報道では決して伝わらない人々の声が突き刺さる。



監督: 船橋淳 テーマ音楽: 坂本龍一「for futaba」

2014/日本/114分/HD/カラー ©ドキュメンタリージャパン/ピッグリバーフィルムズ [製作]ドキュメンタリージャパン、ピッグリバーフィルムズ
[配給]Playtime [宣伝]佐々木壱郎 [プロデューサー]橋本佳子 [撮影]船橋淳、山崎裕 [音楽]鈴木治行 [助成]文化庁文化芸術振興費補助金 [パリアフリー字幕付き上映あり(連日10:30~)]





「こんな放射線量で福島には住めない」
—井戸川克隆 前町長

井戸川町長は東京電力を役場である埼玉県立旧騎西高校に呼び付け、町の公共施設についての賠償約192億円を請求した。同時に「お金で補償できないもの」として、「ふるさとに生きる権利」を主張していた。




「町長さん辞めちゃうと涙出てきちゃうね、一生懸命やってくれたのに」
—埼玉県加須市 旧騎西高校

井戸川町長の不信任決議案を受け、「町民が一体となって助け合うべき時なのに」と、肩を落とす避難者たち。東京電力は、月々12万円の「精神的苦痛への賠償」と避難費用などの実費以外は賠償金を支払っていない。最も本質的で高額の土地と家への補償が決まらないため、高齢者は避難所から独立できないままでいた。(2013年2月当時)

突然住む場所を追われて3年。

「故郷から離れる」という決断、そして「故郷に戻ろうとする」決断。
新旧2人の町長の姿から原発避難の現実を描く。
『フタバから遠く離れて』待望の第二弾!!



「福島に戻って良かったと思ってもらえるように」
—伊澤史朗 町長

2013年3月、町長選挙が行われ伊澤史朗氏が当選。旧騎西高校が東日本大震災で最後の避難所となっていること、町役場を県外に置いていること、それらが原因で福島県側との温度差が出てきていることを指摘。県内への帰還政策を打ち出し、役場もいわき市に移転。「福島県の復興に双葉町も足並を揃えて参加すべき」とした。




「埼玉の避難所ばかりが優遇されている!
閉鎖するべきだ」
—福島県いわき市 南台仮設住宅

町政懇談会では「避難所の高齢ばかりが呼ばれ優遇されるが、仮設や借り上げ住宅に移った人は皆、高齢でも見切りを付けて自立している」という意見も出た。そして、ついに旧騎西高校閉鎖を発表。住民の平均年齢68歳と、ほとんどが高齢者になっていた。



原発事故直後、目に見えぬ放射能から身を守ろうと、町民1400人を引き連れて福島県双葉町を飛び出した井戸川克隆町長。埼玉県旧騎西高校で避難生活を送りながら、補償を求めて東電や国を相手に闘ってきたが、出口は見いだせなかった。2013年1月、町議会から不信任案を突き付けられ辞任。新たに就任した伊澤史朗町長は、「福島県内に戻ることこそ、復興の第一歩」と考え、町役場を福島県いわき市に移転。後に、旧騎西高校の閉鎖も発表し、双葉町は新たな転換点を迎える。

本作は、期せずして異なる立場に立たされた新旧2人の町長の姿から見えてくるものを追ったドキュメンタリー。前作『フタバから遠く離れて 第一部』では旧騎西高校避難所の人々に寄り添い、被災地から「遠く離れた」場所から見える日本の矛盾を描いた。高く評価された船橋淳監督が、再びフタバの現在から描いたものは何か?原発というテーマを越え、今だからこそ全国民に見て欲しい、待望の『第二部』である。

フタバから遠く離れて[第二部]
Nuclear Nation II

2014/日本/114分/HD/カラー ©ドキュメンタリージャパン/ピッグリバーフィルムズ
[監督]船橋淳 [テーマ音楽]坂本龍一[for futaba] [撮影]船橋淳、山崎裕 [音楽]鈴木治行
[プロデューサー]橋本佳子 [配給]Playtime [宣伝]佐々木壇郁

[公式HP] <http://nuclearnation.jp/jp/> [f https://www.facebook.com/futabakara](https://www.facebook.com/futabakara) [t https://twitter.com/futabakara](https://twitter.com/futabakara)

[助成] 文化庁文化芸術振興費補助金